

LESSON 1 Start-Up

LESSON 1 Meeting People
自分のことを話す

Start-Up 学校の近くで、登校中のMikeとShotaが会いました。

Mike: Good morning, Shota!
Shota: Oh, good morning, Mike! Do you walk to school?
Mike: No, I live far from here, so I usually take the train. It takes about an hour.
Shota: An hour? Wow! I live nearby, so I walk to school. It only takes ten minutes.
Mike: Oh, really! You're lucky! I don't like the long train ride.

4 Listening-TASK True or False? 1. T/F 2. T/F 3. T/F

Tip for Better Communication 相手の言い分を理解するために、もう1つ情報を加えてみましょう。会話にリズムが生まれ、その情報をもとにさらに会話を発展させることができます。

Forms 現在のことは現在形で表す
現在のことを伝えるときには、動詞の現在形を使います。現在形を使うと、「住んでいる」、「働いている」などの状態や、「電車に乗る」、「歩く」などの習慣的な行動を表すことができます。
I live far from here.
I take the train.
このような文の動詞の現在形が表すのは、「今」を中心として、過去から現在、そして未来へと広がる時間の範囲です。Do you walk to school?であれば、今現在だけのことではなく、「いつも徒歩通学なの?」とたずねているのです。

Expressions あいづちで関心を示す
Oh, really? のようなあいづちを言うことで、「そうなんだ!」と相手の話に関心をもっていることを伝えることができます。Really? など「そうなの?」というニュアンスです。I see. 「なるほど」と言って、理解を示すこともできます。

Sounds /l/と/r/の発音
/l/は舌先を上唇にあてて発音し、/r/は舌先をどこにもつけない舌全体をうしろに引いて発音します。
live, lucky, long, usually, school / really, ride, from, train, friend
light / right, lead / read, glass / grass, collect / correct

Talk
会話の内容を確認し、MikeとShotaになりきって会話をしてみてください!

Pick-Up 学校には電車です、と言うとき、交通手段を伝える表現として、I come to school by train. ですが、I take the train (to school). とすると英語らしい表現になります。バスや自転車で I take the bus. / I ride my bike (bicycle). という表現も使えます。徒歩通学であれば I walk to school. が自然な表現です。

Start-Up 全訳は教科書(p.140)にも掲載

自分のことを話す CD1-7

- 現在の状態やいつもすることは動詞の現在形で表す。肯定文でも疑問文でも、「いつ」「どこで」という情報を添えることによって話が具体的に明瞭なものになる。
- あいづちを打ったり、相手のことばに反応を示したりして、コミュニケーションを深める。

1. Good morning, Shota! 「おはよう、ショウタ!」
2. Oh, good morning, Mike! Do you walk to school? 「ああ、おはよう、マイク! 歩いて学校に来ているの?」
• walk to school 「徒歩で通学する」 いつもしている習慣的な動作を表すときは、現在形を用いる。なお、同じ意味を go to school on foot で表すこともできるが、walk to school のほうが一般的。
4. No, I live far from here, so I usually take the train. 「違うよ。ここから遠い所に住んでいるんだ。だからふだんは電車で来ているよ」
• live のように〈状態〉を表す動詞は、日本語に訳すと「～している」となるものがあるが、原則的に、現在進行形ではなく現在形を使用することに注意する。
• far from ... 「…から遠くに」
• usually take the train 「ふだん電車に来る」 いつもしている習慣的な動作を表すときは、現在形を用いる。

usually は頻度を表す副詞で、このように一般動詞の前 (be 動詞、助動詞のあと) に置かれるのが一般的。

• この take は「(乗り物)を使う、に乗って行く」という意味。ここでは文脈から「電車に乗って学校に行く[通学する]」ということだとわかるが、「学校に行く」ことを明示したい場合は、take the train to school と言う。なお、この the train は、学校に行くための特定の電車や路線であることを、話し手と聞き手が明確に共有しているため、定冠詞の the をつけている。

5. It takes about an hour. 「1時間くらいかかるんだ」
• It takes ... 「(時間)がかかる」 目的語は「時間」。なお、〈It takes + 人 + 時間 + to do〉だと「(人)が～するの(時間)がかかる」となる。

It takes me an hour to come to school. (私が学校に来るのに1時間かかる)

6. An hour? Wow! 「1時間も? すごいな!」
• 相手の言った an hour を上がり調子で繰り返して、驚きを表している。Wow! も驚きを表すと同時に相手の話に関心をもっていることも伝えている。

6. I live nearby, so I walk to school. 「僕は近くに住んでいるから、歩いて学校に来るんだ」

• nearby (副) 「近くに」 ちなみに、nearby には形容詞の用法もあり、a nearby station のように名詞の前で使われる。near (形) は「(場所が)近くの」の意味では名詞の前で使われることはない(ただし、比較級や最上級なら可)。

7. It only takes ten minutes. 「10分しかかからないよ」

• 5行目と同様に、It takes ... で「(時間)がかかる」という意味を表している。

• only は ten minutes を修飾しているの、その直前に置くことも可能だが、特に話しことばでは、一般動詞の前 (be 動詞や助動詞のあと) に置かれる傾向がある。

8. Oh, really! You're lucky! 「えっ、そうなんだ! きみはラッキーだね」

• 文字通りの意味だが、うらやましい、という気持ちも含むことがある。

8. I don't like the long train ride. 「長時間電車に乗るのは好きじゃないよ」

• 「～が好き」など現在の心理的な状態を表すときは、現在形を用いる。

• train ride 「電車に乗ること」

Listening-TASK CD1-8

音声スクリプト

1. Shota walks to school.
2. Mike takes about an hour-long train ride to school.
3. Mike doesn't like to walk.

スクリプト訳

1. ショウタは歩いて学校へ行く。
2. マイクは約1時間電車に乗って学校に行く。
3. マイクは歩くのが好きではない。

解答

1. T 2. T 3. F

Forms 現在のことは現在形で表す

• 動詞の現在形で現在の状態や習慣的に行っていることを表現する。教科書の I live far from here. の live は状態動詞であり、現在の状態を表している。I take the train. の take は動作動詞であり、習慣的に行っている動作を表している。

• 状態動詞は、「～を愛している」「～を知っている」「～を信じている」といった心理的な状態や、「～を持っている」「～に住んでいる」のような状態を表す動詞であり、現在形を用いて表すと、たった今だけのことではなく、過去から現在、未来までも含んだ時間の範囲でのことを表している。

• 動作動詞の現在形を用いた文は、現在の一時点で行っていることではなく、ふだん繰り返す習慣的な行動を表す点に注目させる。たとえば、I play the flute. (私はフルートを吹く) という文は、今フルートを吹いているという意味ではなく、フルートを吹くのが趣味だ、あるいは、吹奏楽部でフルートを担当しているなど、日常的にフルートを吹いていることを意味している。

• 動詞の現在形は、通常原形と同じ形。主語が三人称単数の場合には語尾に (e)s をつけて使う。

• また、現在進行形は、現在している最中のことや、一時的な状態、変化しつつあることを表すときに使う。

Expressions あいづちで関心を示す

• あいづちは、相手の言葉に反応し、相手の意見に対する関心を示したり、どのように捉えているかを表現したりする、会話の重要な要素である。

• 教科書で取り上げた例のほかに、uh-huh (上がり調子で同意を表す)、uh-uh (下がり調子で否定を表す)、well (「おやまあ」驚き・非難、「ええと」ためらい、「やれやれ」安心、「それで?」発言を促す、など)、right (「その通り、わかりました」同意・承知、上がり調子で「いいですか」確認) などがよく使われる。

• あいづちは短い言葉であるがゆえに、イントネーションや口調によって意味が変わってくる。相手の話や状況をきちんと理解したうえで適切に表現する必要がある点に注意。

• Really! 「そうなんだ!」は、下がり調子で「へえ、そうな

んだ」と相手の話に興味をもっていることを示したり、「そうだね」と同意を表したりする(言い方によっては「あ、そう」と無関心さを示すこともある)。Really? 「本当に?」は上がり調子で驚きや疑問を表す。

例 A: Naoko speaks five languages. (ナオコは5か国語を話すんだ)

B: Really? (本当に?) [驚き]

Sounds /l/と/r/の発音

• /l/と/r/の音は両方とも日本語では「ラリルレロ」と表記されるが、英語では、/l/は舌の上の歯茎につけて発音し、/r/は舌をどこにもつけない舌全体を後ろに引いて発音する。

• like や love などの /l/ は、舌の先をしっかりと上の歯茎につけて、特に第一アクセントの場合は音のはじめを強めに発音する。usually や actually など、第一アクセントではない場合は、舌の先を上唇の歯茎に軽くつけるだけでよい。

• /r/の音は、舌先をどこにもつけないため、音はあいまいに聞こえる。前に軽く「ウ」の音を入れて発音すると、英語らしい発音になる。たとえば、write は「ライト」というよりも「ウァイト」あるいは「ウヴァイト」のようなイメージで発音するとよい。同様に、remember は「リメンバ」というよりは「ウィメンバ」に近い音のイメージで発音するとよい。

• /l/と/r/を区別して発音できるようになったら、/l/と/r/の両方を含む語 (electric, friendly, parallel, relation, rule など) で練習させるとよい。

Talk

• 会話の基本的な構造をつかむことが目標。「疑問の投げかけ」→「それに対する返事」→「あいづち・反応」という流れを理解し、実際の会話で活かせるようになることが重要である。

Pick-Up

I take the train (to school). (私は(学校に)電車で来ています)

• 学校に行く交通手段を伝える表現としては、I come to school by train [bus / bicycle]. など、前置詞 by を使った表現は既習と思われるが、ここではより自然で英語らしい表現を紹介している。

• I take the train [bus]. / I ride my bike [bicycle]. / I walk to school. などの表現を紹介し、教科書 p.24 の活動でも使えるようにしたい。

LESSON 1 Active Learning

教科書 p.20



Active Learning

Meeting People

CD1-20~23

- 現在形を使い、英語でクラスメイトにインタビューをして、その情報をほかのクラスメイトに伝える。
- 現在形を使って、自分の朝の習慣を伝える。

SHARE クラスメイトのことを紹介しよう

・SHAREの活動では、おもに英語で話すことを通じて情報を共有する活動を行う。LESSON 1では、グループになって順番に英語で発表する活動を行う。自己紹介はこれまで行ってきたが、ここでは高校生活が始まり、新しく出会ったクラスメイトのことを知る機会にもなるように、ほかの人のことを紹介する。

- ① クラスメイトにインタビューして情報を集め、内容をメモする。
 - ・席の隣り合った生徒同士やグループのなかでペアをつくり、交代で相手のことを聞く。さらに、余裕があれば、ペアをかえて、何人かのクラスメイトにインタビューしてもよいだろう。
 - ・まず、相手にどんなことを質問するか、メモしていく。教科書紙面にあるようなフォーマットを利用してよいが、フォーマットで想定されていない内容についても質問してよいなど、指示しておくとうい。

教科書訳

出身中学はどこ？
どうやって学校に来ているの？

自由な時間には何をしているの？
あなたの好きなスポーツ [食べ物/色] は何？

メモ記入例

name / school (名前 / 学校)	Yoko went to Kita Junior High School.
train / bus / bike / walk (電車 / バス / 自転車 / 徒歩)	She walks to school. She takes the train [bus]. She rides her bike.
free time (自由時間)	She watches movies on the internet in her free time.
favorite thing (好きなこと)	Her favorite sport is tennis.

- これ以外にも各自がいろいろな質問を考えるとよいだろう。
- ・Who is your favorite singer [actor / comedian]? (あなたの好きな歌手 [俳優/お笑い芸人] はだれ?)
 - ・Are you in any clubs? If so, which club? (何か部活動に入っている? 入っているなら、何部?)
 - ・What is your favorite subject in school? (学校で得意 [好き] な科目は何?)

② 4名程度のグループをつくり、まず、だれがだれを紹介するのかを決める。それからひとりずつ順番に発表する。

・自己紹介の活動は多くの授業で行う機会が多く、マンネリ化防止のために紹介する内容に嘘を一つだけ混ぜるという実践がある。生徒の創造性が膨らむのと同時に聞き手も嘘を見抜こうとして紹介文をしっかりと聞くので活動が活発になるかもしれない。

解答例

I'll introduce Yuji to you. / Let me introduce Arisa.

発表された内容について、聞き手は感想などを述べたり、質問したりする。

解答例

- ・I love that popular group, too. I want to talk with her about them.
- ・How long does it take for her to come to school?
- ・What kind of movies does she like?

SHAREの活動に用いる表現

- ・be good at ... (…が得意だ)
- ・be into ... (…に夢中だ)
- ・after school (放課後)
- ・a pastime (気晴らし、娯楽)
[hobbyがある程度の知識や技術を必要とする活動であるのに対して、pastimeは単にテレビを見たり買い物したりということも含む]

WRITE 「朝の習慣」について書こう

① 「自分が朝していること」を書く。まずは、行動を簡条書きにしていく。ふだんしていることなので、動詞の現在形を使う。

LESSON 1 Active Learning

教科書訳

6時に起床。着替える。朝食をとる。
自転車で学校に行く。15分かかる。
②時系列にそって並べ、文と文を適切な接続詞でつなげる。また、first, then など、順序を示す副詞を使って、時間の流れがはっきりわかるようにする。

教科書訳

私はふだん6時に起きます。まず着替えて、それから朝食を食べます。時々、犬の散歩に行きます。そのあと、7時15分に学校へ行きます。

WRITEに用いる表現

- ・morning routine (朝の目録)
- ・do one's hair (髪を整える)
- ・have ... for breakfast (朝食に…を食べる)
- ・check the weather forecast (天気予報をチェックする)
- ・take a walk (散歩する)
- ・get dressed ((ちゃんとした服に) 着替える)
[dressed は動詞 dress (～に服を着せる) の過去分詞が形容詞化したもので「服を着せられた→服を着た」という意味。get は「(変化してある状態に) なる」]

解答例 1 (Write Worksheet より)

・I get up at 6:30 on weekdays. First, I wash my face and brush my teeth. After that, I get dressed and eat breakfast in the living room. Then I usually leave for school at 7:30. (平日は6時半に起きます。最初に顔を洗い、歯を磨きます。そのあと、着替えて居間で朝食をとります。それから、たいてい7時半に家を出て学校に向かいます)

解説

・First, After that, Then といった順序を表す副詞(句)を使って、行動の流れを明確に示している。

解答例 2 (Write Worksheet より)

・On weekdays I wake up at 6:10 in the morning. After I wash my face and get dressed, I have breakfast with my family. I usually make my own toast and pour my own milk. Then I leave home at 7:30 and take the 7:40 bus to school. (平日、私は朝6時10分に起きます。顔を洗って着替えたあと、家族と朝食をとります。たいいてい、自分でトーストを焼き、ミルクをつぎます。そして、7時半に家を出て、7時40分のバスに乗り、学校に向かいます)

解説

- ・make toast 「トースターでパンを焼く」
[toast には動詞の用法もあり、「～をトーストにする」という意味になる]
- ・the 7:40 bus 「7時40分のバス」
[「～時のバス」はこのように乗り物の名前の前に時間を置いて表現する。the eight o'clock train のように言うこともできる]

- ・完成した英文をもとに、ペアやグループで自分の朝の習慣を紹介する活動を行えば、話す活動に再び繋げることができる。あいづちを打つ練習や、質問を追加して情報を引き出す練習などに活用できる。
- ・SHARE, WRITEともに、活動が一通り終わったら、教科書ないしWorksheetのSelf-Checkで自分たちの活動を評価させる。評価させる際には、できるだけ具体的な評価規準(ループリック)を示すことで、身につけさせたいポイントに生徒の意識を向かわせることができる。例えば、SHAREの活動は3段階で自己評価をするようになっているが、「聞き出した情報に自分の意見やコメントを付け加えることができたら3」「聞き出した情報を正確に紹介することができたら2」「メモを見ずに話すことができたら2」などの評価規準が考えられる。生徒の力や授業者が大切にしている点などに応じて設定し、それぞれの活動の前に生徒と共有しておくとういだろう。マイナスの要素があれば、修正してやり直せる機会を設けたり、別の活動の際に振り返れるように記録に残しておいたりして、生徒が自分で改善できる場面を設定するとよい。

Logical Thinking

・文と文の結びつきを考え、まとまりのある文章を書くよう意識づける。教科書の例文では、I like playing the piano. (私はピアノを弾くのが好きだ)のあとに、同じく音楽関連の、I really love classical music. (クラシックが本当に好きだ)を続け、ひとつのまとまりのある話にしている。一方、後半をI read many books. (私は本をたくさん読む)とすると、散漫で印象に残らない文章になってしまう。最初に自分が何について話したい「書きたい」のかを明確に意識し、それにそって話を展開していくことが重要。